

●人は本来コミュニティ(共同体)の中で豊かに命を育まれます。しかし昨今、コロナ禍や核家族化、また弱者への配慮にかけた地域社会や宗教などの問題もあり、身近にあったコミュニティが揺らいでいます。そのような世の中にあつて、私たちは神様を信じ、励まし、祈りあう「信仰の共同体(Faith Community)」の意味と価値を問い直す事が求められています。

●今日の聖書はマリアの受胎告知の場面です。天使がマリアのもとに突然現れ「あなたは聖霊によって子ども(神の子)を身ごもったのだ」と告げました。この驚くべき出来事はマリアの日常生活のただ中で起こりましたが、マリアにとって身近なコミュニティはその時どのような意味を持っていたのでしょうか。

マタイ福音書によれば、最も近くにあった婚約者のヨセフは縁を切ろうとしたと伝えていますが、マリアは地域の共同体から後ろ指をさされるような事もあったのではないかと想像します。しかし、そのような厳しい状況にあつて、マリアは「私は主のはしためです。お言葉通りになりますように(Let it be with me according to your word)」と言い、自分の環境を受け止め歩み出したのです。

●ポール・マッカートニーが書いた「レット・イット・ビー(なるがままに)」という歌は、このマリアの言葉に基づいています。この歌詞には「神の言葉、御旨のままに」という言葉が隠されています。これは、周囲に理解されない孤独や困難の中、心傷ついた者が、神への信仰と覚悟をもって自らの困難な運命を引き受けていく事を励ます歌です。そしてこの歌の最後の歌詞、「心傷ついた人々が一つとなりこの世で生きるとすれば、その答えはきっと『なるがままに』・・・」という言葉は、傷ついた人同士が出会い、共に生きる「真の共同体」への希望を歌っています。

●マリアは完全に孤立していたわけではありませんでした。マリアには律法主義を乗り越えたヨセフがおり、共に主の言葉に希望を置いて歩もうとするエリサベトが与えられたのです。聖書は苦難を抱えつつも前を向いて生きる者には、必ずや良い共同体がそなえられるのだと告げているのです。

●イエス様は「神の言葉を行うものが私の家族だ」と言われました。苦難の中、共に神の言葉に希望を置く関係、「信仰の共同体」こそが大切なのだと教えられました。私たちも悩みや苦しみを抱えています。主に希望を置き、共に連帯する共同体を作っていきたい、そう願います。